
紫煙を吐き出して

やぎ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

紫煙を吐き出して

【Nコード】

N0863P

【作者名】

やぎ

【あらすじ】

三題話です。煙草と振られた話です。

yagimokiさんは、「夕方のコンビニ」で登場人物が「振られる」、「落ち葉」という単語を使ったお話を考えて下さい。 <http://shindanmaker.com/28927>

自分自身の内面も外も見れなかった。見ないことが癒しだと、救いだと思っていた。

いま、覚醒しているのか、していなのかのまどろみの状態。天井から垂れている電灯の糸を呆然と見る。右へ左へとゆらゆら揺れている。何かしたいという願望は起きない。だが、ニコチンの渴望だけはどんな時であろうと俺の中で消えない。部屋の中を探したが、タバコの吸殻しか見当たらない。そうだ、買い置きタバコは昨日帰宅してから、全部吸い尽くした。言葉にならない何かを煙として出し尽くした気になっていたが、まだ出し足りない。出したい。

寝間着から適当に着替える。髭もそのまま。剃る余裕がない。五時だというのに外は暗くなっていた。もう冬が来ているのか寒さが身に染みる。自宅から一番近いコンビニへと向かう。並木通りの葉っぱは緑から茶色へと変わりはじめていた。毎日通る道なのに気づきすらしなかった。生暖かい店内へ入り、いつも通りタバコとホットコーヒーを購入する。外に出て直ぐ様タバコを一本取り出し火をつける。肺の中に煙を入れて吐き出す。いつも吸い慣れたにおいが鼻を刺激する。

「……振られたんだよね……俺」

ああ、やっと吐き出せた。煙としてではなく、言葉として。タバコの吐き出しは代償行為でしかなく、実際は何も吐き出してなんかない。

ほとんどが灰になったタバコを灰皿へ捨て、新たに一本取り出す。紫煙が上へ上へのぼっていく。

彼女に振られたからといって俺の内面に劇的な変化は訪れなかった。世界の終わりかとも思っていたが、そういうわけでもなかった。いや、違う。一時的に麻痺している。それが分かる。数日経ったら鈍い痛みとなつて俺の精神を蝕む。それを防ぐための行為。だから今はその麻痺に甘えよう。

告白が実らないのは前から分かっていて。ただその事実から目を背け、蓋をして、無視していた。淡い妄想を抱きながら告白した。愚かさといイ人の間で悩む結果となつた。

結局、何処までいっても俺は俺のままだった。俺という範疇からはどうしても抜け出せない。

頭に鈍い痛みが広がる。タバコを吸つたための痛みか、それ以外の痛みか分からない。落ち葉がヒラヒラと舞っていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0863p/>

紫煙を吐き出して

2010年11月23日13時06分発行